



☆ 支援と見守り

時の流れと共に、支援させていただく形も変わり行く、これは当協会の理念に添った「捉われぬ」「おしつけをしない」など等、の理念を大切にしていくなかであります。

東北被災地においてもしかり、またネパール国においてもしかりです。今、これらの地では、見守りの時です。ボランティアのアンテナを曇らすことなく、いつでもご支援させていただく心構えで日々過ごしたく、なによりも、支援を必要としない地域になりますことを切に願います。インドの孤児院運営は、子ども達も大きく進学等、学費もかさみますが成長を喜び支援を続けていく大切さを痛感致しております。今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

☆ 東日本大震災の支援地では

これまで私たちの支援をさせていただいている宮城県石巻市小浜浜の桜畑仮設住宅の方々は今、海辺も復旧し、春はワカメ採りが盛んにおこなわれるようになり、またホタテの養殖も収穫できるようになり出荷がさかんに行われるようになってきつつあります。

そのことよってこの地域の方々も震災前の仕事に従事できるようになり、お住まいはまだ仮設住まいですがお仕事があるということ、活気づいてきていますとのことでこちらも安堵しております。

多くの影を取り除くには 一筋の陽光で十分である

アツシジの聖フランシス

しかしながら、この3年間のご

苦勞を思いますとこの先も乗り越えなければならぬ山がいかにか高いことか、これは体験なさった方々にしか解らないことでありましょう。この心情を察しながら、心を配って参りたく存じます。今後とも宜しくお願い致します。

☆ 井戸堀りの要望書

そして現地視察(インド)

このたび、南インド・タミルナドゥ州のカラサパッカムの村にあるハンセン病患者の施設よりイギ

リスの団体を経て、この地に井戸を掘って欲しいとの要望書が届きました。要望書によりますとその地域は水がほとんどなく生活に窮しているのです、近在の村を含め是非井戸を掘って欲しい。井戸1基約30万円など、見積金額や井戸の大きさも記しての手紙でした。

そこで、6月9日からボランティア6名で現地の視察に行ってきました。インドのバンガロールから、南へ約200キロ以上の道を夜中に走り、途中、ホテルで休憩し、翌朝現地へと向かいました。施設に着くとお年を召された中心人物の方々と職員の方に2階の事務所へと案内され色々説明を受けました。ハンセン病の痕跡で足や手の指が失われており、彼らのこれまでの人生の苦痛の深さを改めて知らされた思いでした。

(今はハンセン病は治る病ですが、一昔前は世の中と隔離を強いられた病気でした。)

『私の体が痛みと闘っている時は私の心は必至でそれに耐えている私の心が苦しみと闘っている時は私の体は一生懸命それに耐えている。』

ああ いったんになったらお前達二人手をとって喜びあう日がくるだろう。(ブッシュ孝子詩集より)



施設内にて

話が終わり施設の周りを見学して驚きました。建物の裏側にあるタンクからの水がジャージャー開放しになっていたので。

「あらまーお話をずいぶん違う」と女性二人。しかしその場合は黙って帰路の車へ。車の中でそのことを話した。車窓の向こうでは水のタンクがあちこちに点在していた。水タンクを先ほど見たこともあってそれがそれであることが解った。

それでも、次の日、早朝オート三輪に乗って施設の近くまで行ってみた。民家の軒先でジャブジャブ水をつかって洗濯する女性たちの姿にホツとした。10時過ぎ、ジャナキラム氏の手配で州の役人が訪ねてきてくれ、この地では水が十分足りているとの説明を聞き、もつともつとホツとした。

シバ神の霊山と崇められているアルーナチャラ山のふもとにあるこの地は守られている町。そんな気が致しました。井戸掘りは中止と致しました。

信頼する心

バザーには、多くの品物のご寄付をいただきます。と同時に品物を保管する場所が必要で、狭い我が家では、とてもスペースが無く、常に悩みの種でした。とその時、二人暮らしで部屋が余っているから、二階の一部屋を自由に使っていいわよ。留守が多いから、鍵をあなたに渡すから自由に出入りして使ってね」と、U様から御声掛けしていただきました。

留守中に勝手に鍵を開けるなんて・・・私にはとても考えられないお申し出にびっくりしましたと同時に私達ボランティアに信頼を寄せて下さりお心に感動しました。

その上、お会いする度お手伝いをお申し出下さり、夏のバザーの折にもお心使いを頂きました。広く深いお心に感謝しております。



☆ 孤児院便り

現地責任者のジャンキラム氏よりハリーラクシユミさんはジュニアカレッジを卒業し、4年制の大学に無事合格しました。彼女は努力家で成績も良く、大学に通えることをとても感謝しております。夢はエンジニアだそうです。

アヌシヤさんも同じくジュニアカレッジを卒業し、コンピューター関係（銀行や政府関係の仕事）に就きたいとの事で3年の大学生活を送ります。

スリシヤさんは薬剤師になりたいと勉学に励んでいるそうです。

ガンガラジュ君とキラム君はハイスクールの卒業し、難関の4年制の大学の試験に合格しました。

二人とも将来の夢が持てとても努力しているとの事です。他の子ども達も皆普通に生活を送っているとの事です。普通に生活を送ることがどんなに有難いことかと思えます。縁あってエル・エンジェルボランティアの皆様の子として育ち、将来の夢を持てるまでに、心の成長を図ることが出来、皆様の恩に感謝し自分自身の為にも一生懸命勉強に励み大学進学を叶えました。

皆様のお心に深く感謝申し上げますと共に今後共宜しくお願い申し上げます

○ “共に助け合いたい”それが私たちの願いです。ご協力、よろしくお願いいたします。

- 支援金振込先 郵便口座 口座名 特定非営利活動法人エル・エンジェル
記号 10290 口座番号 68107191
- ゆうちょ銀行 口座名 特定非営利活動法人エル・エンジェル
店名 (028) 店番 (028) 普通預金 口座番号 6810719
- 三菱東京UFJ銀行 口座名 特定非営利活動法人エル・エンジェル国際ボランティア協会
海老名支店 (409) 普通預金 口座番号 0966597

そよ風

心の優しさのあまり、困っている人を見ると、我知らずにつこりと親切に話しかけ、手助けせずにはおられない人は、親切をするたびにうれしくてたまらず、そのうれしさが生き甲斐になっていくのです。

もし幸福な生活を送りたいと思う人々がほんの一瞬でも胸に手を当てて考えれば、心の底からしみじみと感じられる喜びは、足下に生える雑草や朝日にきらめく花の露と同様、無数にあることが分かるでしょう。

ヘレン・ケラー

○ 支える会より

8月30日(土)

つくし野杉山神社夏祭り

バザーにお使い下さいと商店様より、本の付録のバックやポーチ、子ども達の大好きなプーさんのぬいぐるみ、名探偵コナンなど大きな箱を2箱も送って頂きました。

楽しんで販売させていただきました。

編集後記

ボランティアするにあたり、現地視察すること、自分の目で見、確かめる事。本当に必要とされていることを確認することの大切さを学ばせていただきました。

今回“こころ”の編集時全員改めてU様のお心に感動しながらの作成でした。(E)